

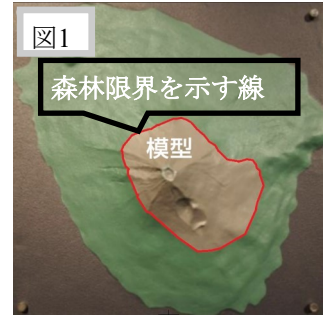
# 北

## 富士山世界遺産センター北館ワークシート(記述 編)

学校 年 組 氏名



Q1: 図1の森林限界を示す線より山頂部分の形と図2の火山性荒原の形を見比べて、形について気が付くことを書き、植物が生息する環境と土壌についてどのようなことが考えられるか、自分の考えを書いてみよう。図は展示「富士山100面相」を見てください。



形 について: \_\_\_\_\_

土壌について: \_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

Q2: 右の写真は、富士山吉田口の五合目付近（森林限界付近）にあるカラマツの写真です。写真の右側は西になります。この木の枝を見て、なぜこのようになったか考えましょう。この付近には、同じような枝振りの木がたくさんあります。

ヒント：富士山の周辺で出来る笠雲や吊雲を起こす風が関係しています。

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

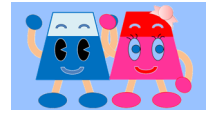
\_\_\_\_\_



おまけのQ (時間があったら考えてみてください)  
大きな富士山の写真の両側に、森の写真があります。この二つを見比べ、地面の様子と木の種類について、森の遷移について考えてみてください。

Q3:富士山の周りでは、色々な雲が見られます。特に、笠雲や吊雲はよく知られています。右の写真は、当センターから撮った写真です。

ところで、このような雲が出来るときは、強い西風が吹いています。しかし、雲は同じ場所にあります。強風が吹いているとは思えません。これはどうしてか、笠雲を例に、考えてみよう。



ヒント:風は富士山の山肌に沿って流れる。露点。

---

---

---

---

Q4:右の写真は、溶岩樹型です。この樹型は溶岩流が、立ち木の周りを取り囲み、木が燃えてできた垂直な樹型です。入口の白で囲んだ部分を拡大したのが下の写真です。

この溶岩の形を見て分かることを書きましょう。



---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

## 北館ワークシート(記述編)

### 出題者の意図

#### Q1

森林限界を示すより上の部分と火山性荒原の部分がほぼ一致する（同じ）こと。そして、火山性荒原の部分は、スコリアや溶岩の塊が多く土がほとんど無く、地面の保水力や栄養分がないので、植物が生息するには厳しい環境ということを理解できていればよい。

#### Q2

写真の木だけでなく、この付近の木は同じような枝になっていることから、西側に枝が伸びない程の何かがある。それは、ヒントを見て西風が強いので、西側の枝が育たないと理解できていればよい。

#### Q3

強い西風が富士山の裾野から山頂に向かって吹いているときに、急に標高が上がり気温が下がるので、露点に達して雲ができ、山頂を通過して標高が下がっていく間に気温が上がり露点よりも高くなり雲が水蒸気に戻る。（雲が消える）。そのため、空気は早く動く（風が強い）が、雲ができて消えるところが変わらないので、強風が吹いているようには見えないこと、雲が出来ているところはほぼ変わらないことを理解できていればよい。

#### Q4

樹型の縁の高さが、写真の奥が高く、手前が低い。このことから、奥から手前に溶岩が流れたことを理解できていればよい。

#### おまけのQ

富士山の写真に向かって右が大室山、左が青木ヶ原の写真。青木ヶ原は森としては若く、地面は溶岩の凹凸がしっかり分かり、そこが苔生している。土が少ない。生えている植物は針葉樹(アカマツ)。

それに対して、大室山は落葉が有り、土で地面が覆われている。生えている植物も広葉樹である。森としては、青木ヶ原よりも遷移が進んでいる。

このようなことを理解して欲しい。併せて、大室山と青木ヶ原の位置関係も確認して欲しい。